

■ 小金井市の地域特性

目次

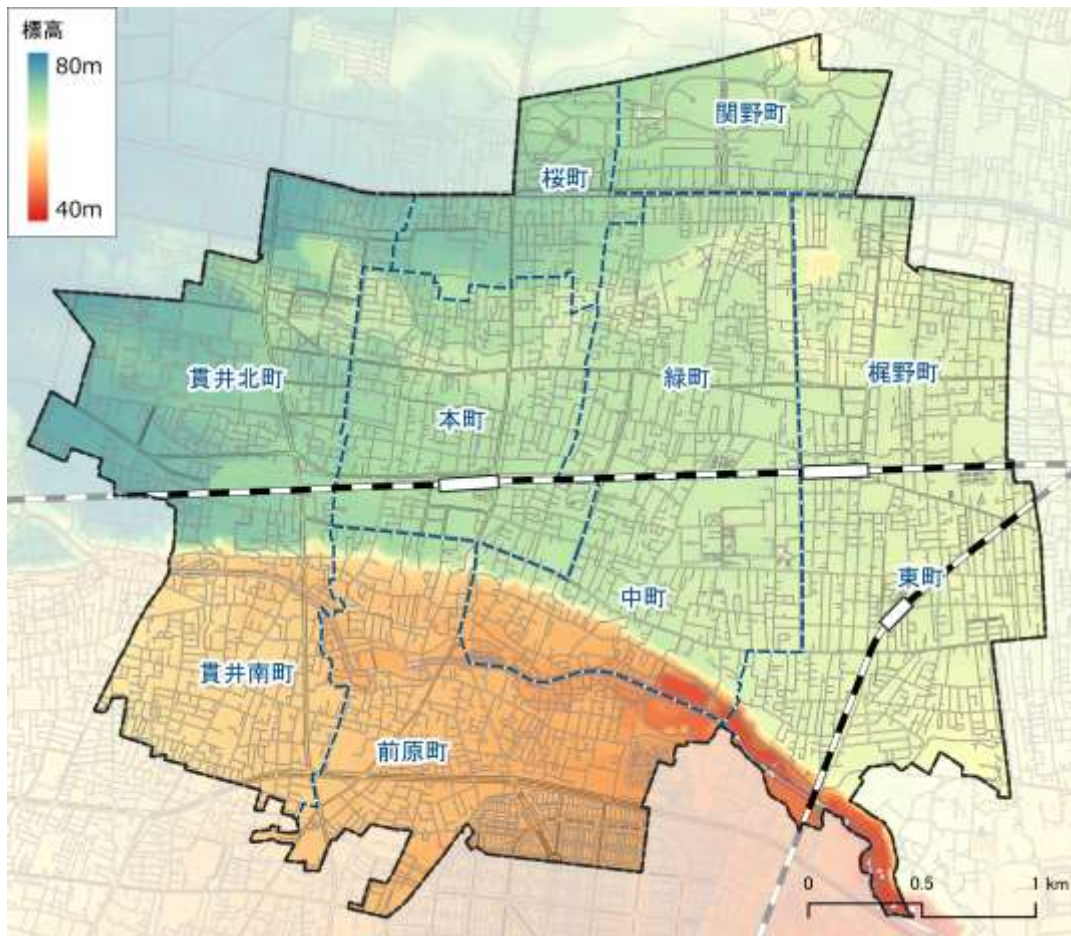
1	地形	2
2	施設配置.....	3
3	開発計画.....	5
4	人口動向・分布	7
4.1	将来人口動向	7
4.2	人口分布.....	7
5	移動特性.....	10
5.1	通勤・通学	10
5.2	移動の目的	12
5.3	移動の手段	13
6	観光（施設来訪者数）	16
7	道路状況.....	17
7.1	主要道路の幅員構成の確認	17
7.2	都市計画道路	18
7.3	自転車通行空間.....	19
7.4	駐輪場設置状況.....	20
8	交通事故状況	21
8.1	交通事故発生状況（年代別・手段別）	21
9	免許保有状況	23
9.1	免許保有状況	23
9.2	保有状況別行動特性	23
10	道路混雑状況	25
10.1	交通量.....	25
10.2	混雑度	26

1 地形

小金井市の地形について、市北部から東部の鉄道沿線地域は、ほぼ平坦であり、市南部地域は、中町の南部、前原町、貫井南町の北部に、立川から始まり野川、多摩川に沿って田園調布付近まで続く国分寺崖線が市を東西に横断しています。崖線の北地域で、標高 65–70mであり南部では 50–55 mと高低差はおおよそ 15mあります。

鉄道駅は市内の高地に位置するため、低地である貫井南町、前原町、中町の一部から駅へのアクセスは崖線を越えた南北の移動が発生し、自転車、徒歩での移動負荷が高い状況です。

図表- 1 地形高低差

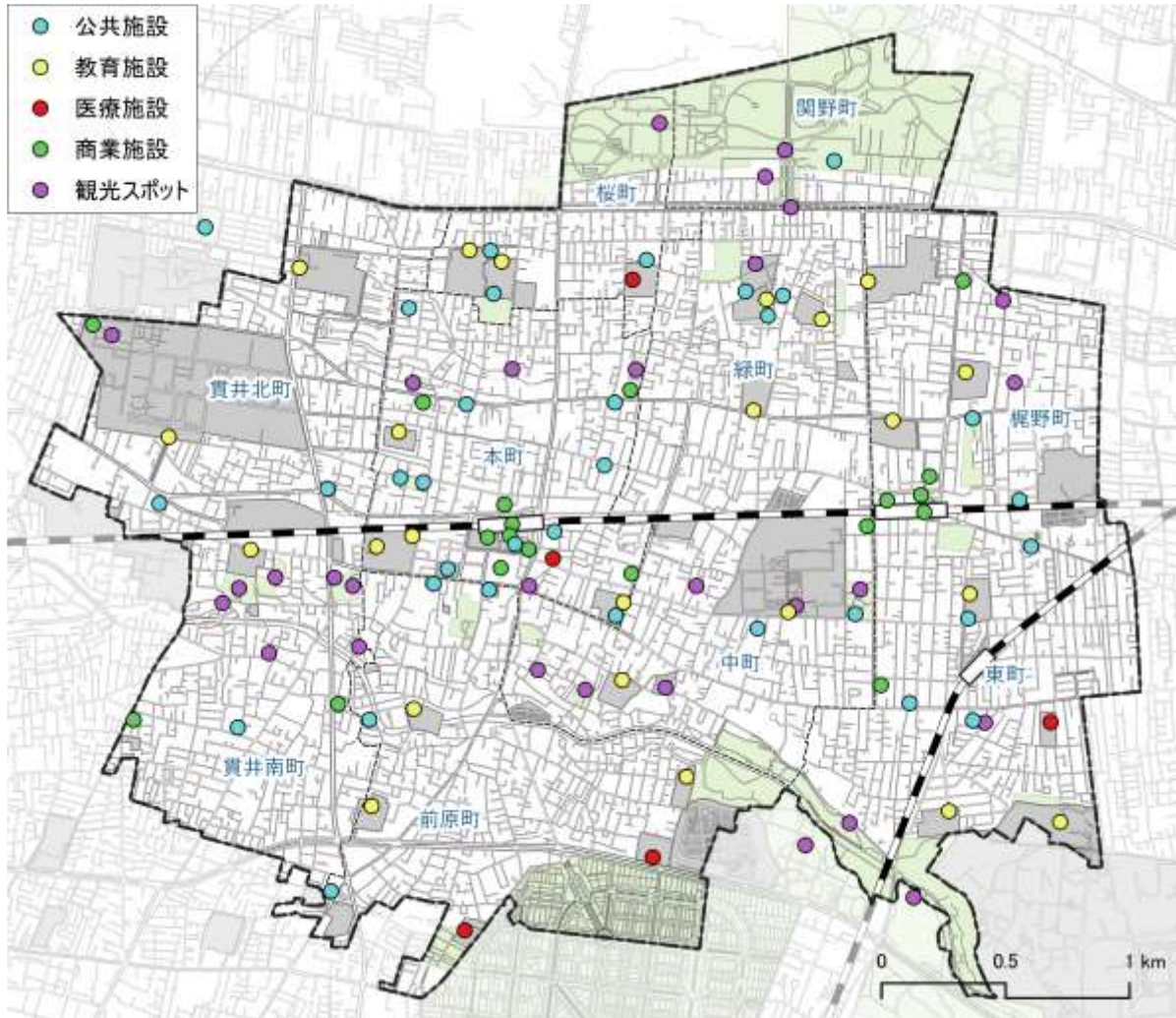


出典：国土地理院「基盤地図情報」より作成

2 施設配置

市内の施設配置について、公共、商業施設は駅を中心に点在。観光は野川、国分寺崖線の地域や北部、医療施設については、駅から離れた南部の地域にも点在している状況です。

図表- 2 施設配置図



出典：国土数値情報（国土交通省）、地理院タイル（国土地理院）、市調べより作成

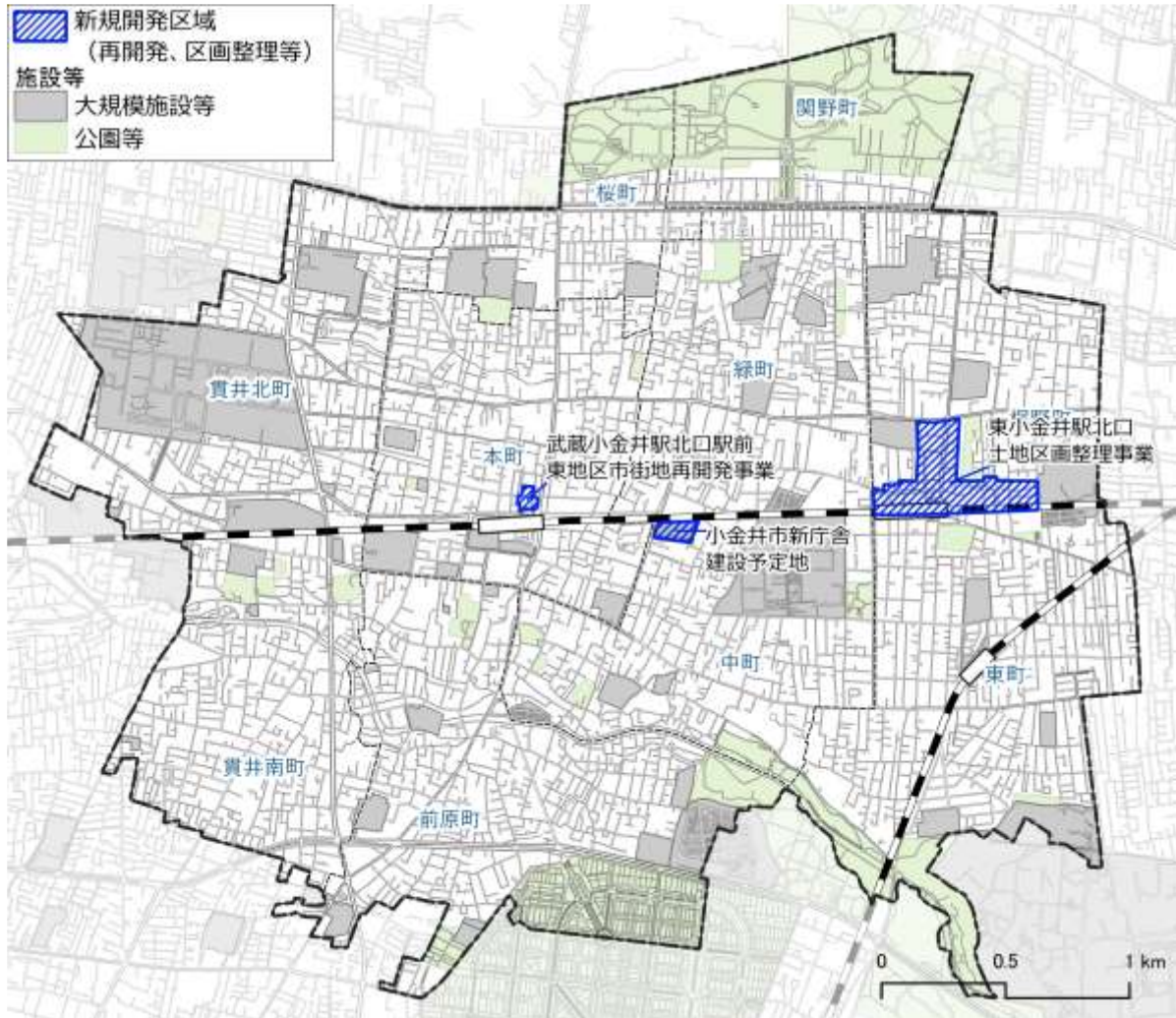
図表-3 施設一覧

公共施設		商業施設			
1	市役所本庁舎	1	いなげや小金井本町店	20	前原小学校
2	市役所第二庁舎	2	イトーヨーカドー 武蔵小金井店	21	本町小学校
3	観光まちおこし協会	3	コープみらい めくい坂下店	22	緑小学校
4	保健センター	4	ピーコックストア東小金井店	23	南小学校
5	障害者福祉センター	5	マルエツ 東小金井駅北口店	観光スポット	
6	社会福祉協議会	6	オリンピック 小金井店	1	小金井公園
7	児童発達支援センター きらり	7	いなげや 小金井東町店	2	江戸東京たてもの園
8	きた地域包括支援センター	8	成城石井武蔵小金井店	3	浴恩館公園
9	みなみ地域包括支援センター	9	いなげや小金井貫井南店	4	東京農工大学科学博物館
10	ひがし地域包括支援センター	10	グルメシティ小金井店	5	栗山公園
11	にし地域包括支援センター	11	地産マルシェ東小金井店	6	玉川上水
12	本町高齢者在宅サービスセンター	12	n o n o w a 東小金井	7	梶野分水築樋
13	小金井 宮地楽器ホール	13	n o n o w a 武蔵小金井	8	都立武蔵野公園
14	公民館本館	14	ソコラ武蔵小金井クロス	9	都立野川公園
15	図書館本館	15	アクウェルモール	10	はげ（国分寺崖線）
16	貫井南センター	16	MEGAドン・キホーテ	11	市立はげの森美術館
17	東センター	17	魚勝・グレース	12	小金井小次郎の墓
18	緑センター	18	オーケー梶野町店	13	黄金の水
19	貫井北センター	19	オーケー武蔵小金井店	14	湧水の道
20	市民会館 萌え木ホール	教育施設		15	滄浪泉園
21	マロンホール	1	国立東京学芸大学	16	花と緑の小径
22	婦人会館	2	私立法政大学小金井キャンパス	17	情報通信研究機構
23	上之原会館	3	国立東京農工大学	18	川崎平右衛門供養塔
24	前原町西之台会館	4	私立中央大学附属高校	19	遊歩道北2号線
25	桜町上水会館	5	東京都立小金井北高校	20	閻魔堂木造閻魔王坐像・イイギリ
26	東町友愛会館	6	東京都立多摩科学技術高校	21	貫井神社
27	総合体育館	7	私立国際基督教大学高校	22	笠森稻荷神社
28	栗山公園健康運動センター	8	私立東京電機大学高校	23	三楽の森
29	上水公園運動施設	9	東京都立小金井工業高校	24	小金井市環境楽習館
30	市テニスコート場	10	小金井第一中学校	25	八重垣稻荷神社
31	本町児童館	11	小金井第二中学校	26	三光院
32	東児童館	12	東中学校	27	長昌寺
33	緑児童館	13	緑中学校	28	稲穂神社
医療施設		14	南中学校	29	小金井神社
1	桜町病院	15	小金井第一小学校		
2	小金井太陽病院	16	小金井第二小学校		
3	小金井病院	17	小金井第三小学校		
4	小金井リハビリテーション病院	18	小金井第四小学校		
5	武蔵野中央病院	19	東小学校		

3 開発計画

小金井市内の商業施設、公共施設の大規模な開発計画については、武蔵小金井駅北口の再開発事業、東小金井駅北口の区画整理事業、市役所新庁舎の建設計画の3つが主な計画となります。

図表- 4 再開発、区画整理等の計画地



出典：国土数値情報（国土交通省）、地理院タイル（国土地理院）より作成

図表-5 計画の概要と開発イメージ

計画名称	開発イメージ案等
概要・スケジュール等	
<p>新庁舎・（仮称）新福祉社会館建設事業</p> <p>本庁舎の老朽化への対応、バリアフリー化の推進などの観点で新庁舎を建設するもの。</p> <p>主要用途：庁舎、児童福祉施設等、集会場</p> <p>階数：地上6階、地下1階（庁舎） 地上3階（（仮称）新福祉社会館）</p> <p>実施設計：令和6年12月完了 建設工事着工：令和7年7月予定 完成時期：令和10年10月 オープン予定</p>	 <p>出典：新庁舎・（仮称）新福祉社会館建設に係る市民説明会 配布資料</p>
<p>武蔵小金井駅北口駅前東地区市街地再開発事業</p>	
<p>以前より商店街の活性化を目指すために、武蔵小金井駅北口では地元発意によるまちづくりが進められていた。この度、にぎわいのある魅力的な商店街に再生し、楽しく歩けるまちの実現を目指した組合施行による市街地再開発事業が提案され、令和6年12月13日に本再開発事業の都市計画決定を行った。</p> <p>工事着手：令和8年度予定 完成時期：令和11年度予定</p>	 <p>出典：武蔵小金井駅北口地区に係る都市計画について パンフレット</p>
<p>東小金井駅北口土地区画整理事業</p>	
<p>「緑と文化の香りがする東部地区の中心核」となる市街地の創出を目指し、平成12年2月1日に事業計画認可の公告を行った後、平成20年から道路築造工事、平成21年から建物移転が開始。令和6年度に移転・工事期間を考慮し、事業期間を令和16年度まで延伸。</p> <p>施行期間：平成12年2月1日～ 令和17年3月31日</p> <p>施行面積：11.0ha</p> <p>平成25年3月に「東小金井駅北口まちづくり事業用地整備活用計画」が策定され、区画整理区域内のまちづくり事業用地の整備方針を示している。</p>	 <p>出典：東小金井駅北口まちづくり事業用地整備活用計画 ※平成25年3月策定時の予定</p>

4 人口動向・分布

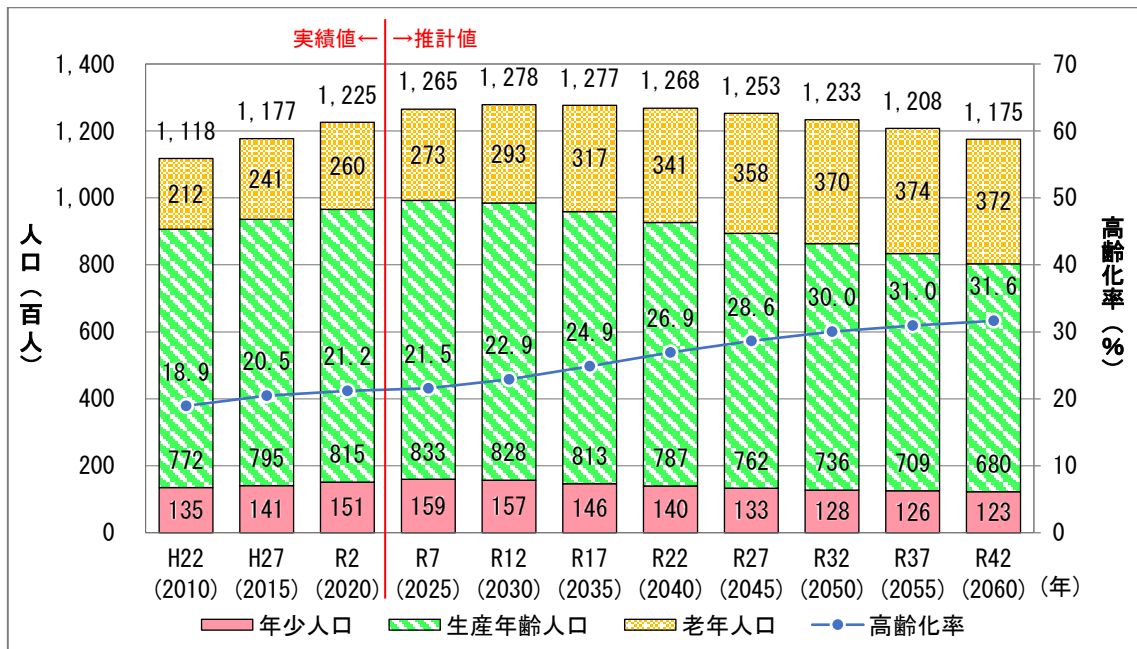
4.1 将来人口動向

小金井市の総人口については、令和 2（2020）年頃まで実績値で増加傾向にあり、その後も緩やかに増加すると推測され、令和 12（2030）年頃に約 12.8 万人のピークを迎え、以後徐々に減少に転じることが予測されています。

年少人口（0～14 歳）、生産人口（15～64 歳）は令和 7（2025）年頃をピークとする一方、老年人口（65～歳以上）は今後も増加傾向が続く見込みです。

高齢化率は、令和 5（2023）年現在 21.4%であり近年増加傾向にあるとともに、将来も増加が続く推測であり、令和 42（2060）年には約 31.6%となり、おおよそ 3 人に 1 人が高齢者となる時代が到来すると見込まれています。

図表-6 5年ごとの年齢3区分別人口と高齢化率の推移



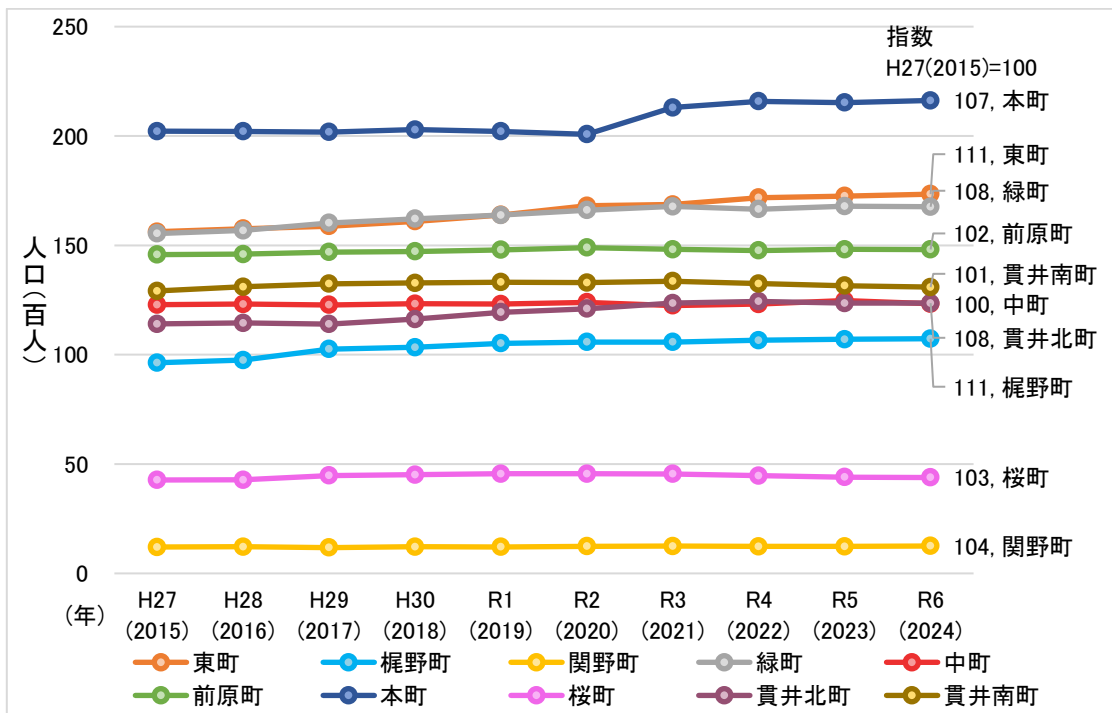
出典：住民基本台帳データと小金井市人口ビジョンより作成
※実績値は各年4月1日現在のデータ

4.2 人口分布

小金井市の人口分布は地域別に見ると、本町の人口が一番多く、次いで東町、緑町となっており、駅周辺地域の人口が高い傾向にあります。一方、人口が少ない地域は、関野町、桜町となっており、市北部に集中しています。また、国分寺崖線を挟んだ低地となる前原町、貫井南町も市全体で見ると人口は中位となります。

高齢化率の分布を見ると貫井北町の東京学芸大学の周辺地域が極端に低い傾向にありますが、全体としては駅周辺地域が低く、周辺に離れるにつれ徐々に高くなっていく傾向にあります。

図表- 7 市内地域別人口推移

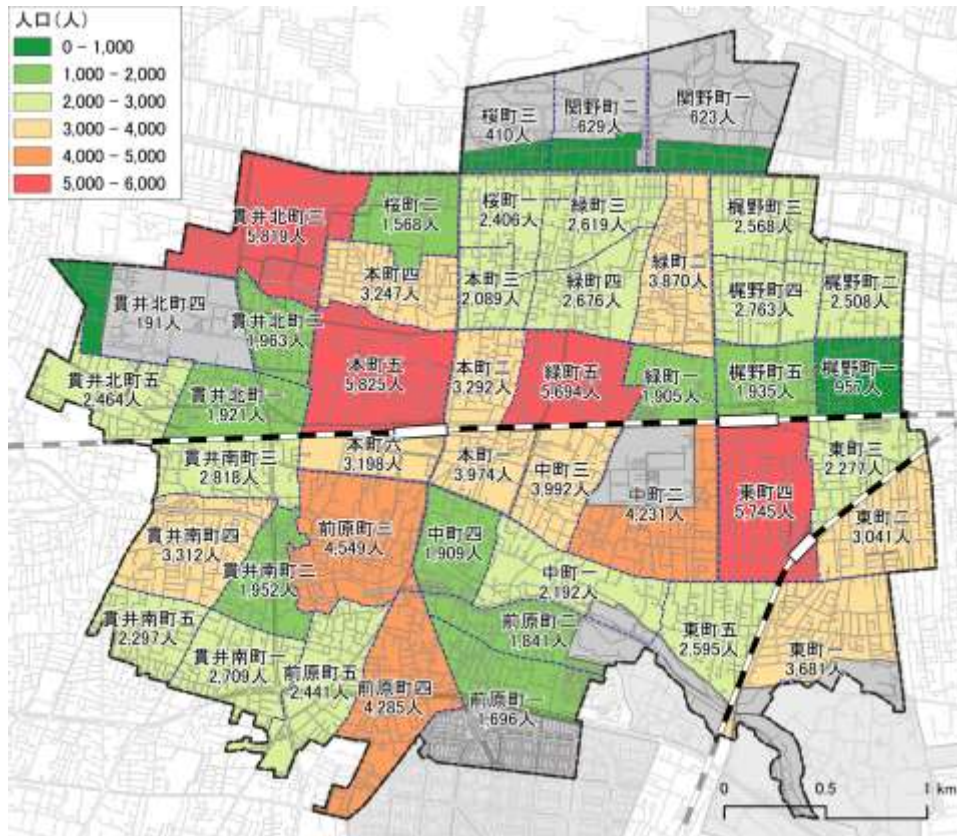


出典：住民基本台帳データより作成
※実績値は各年4月1日現在のデータ

図表- 8 位置図

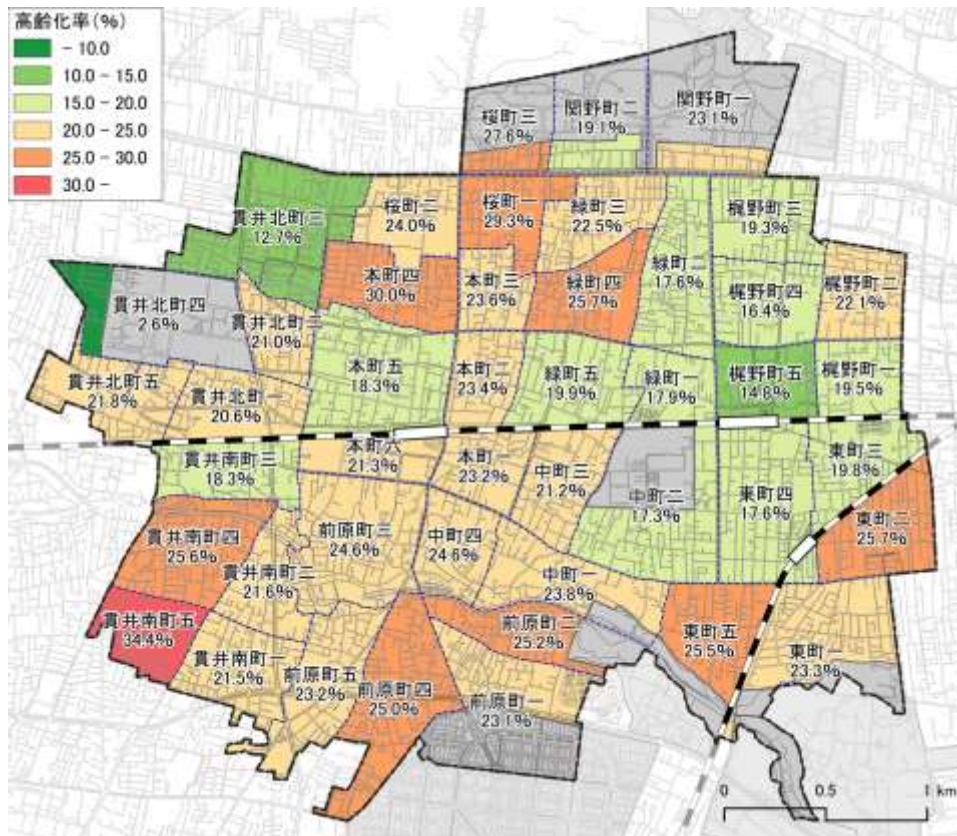


図表- 9 人口分布（令和6（2024）年4月）



出典：住民基本台帳データより作成

図表- 10 高齢化率分布（令和6（2024）年4月）



出典：住民基本台帳データより作成

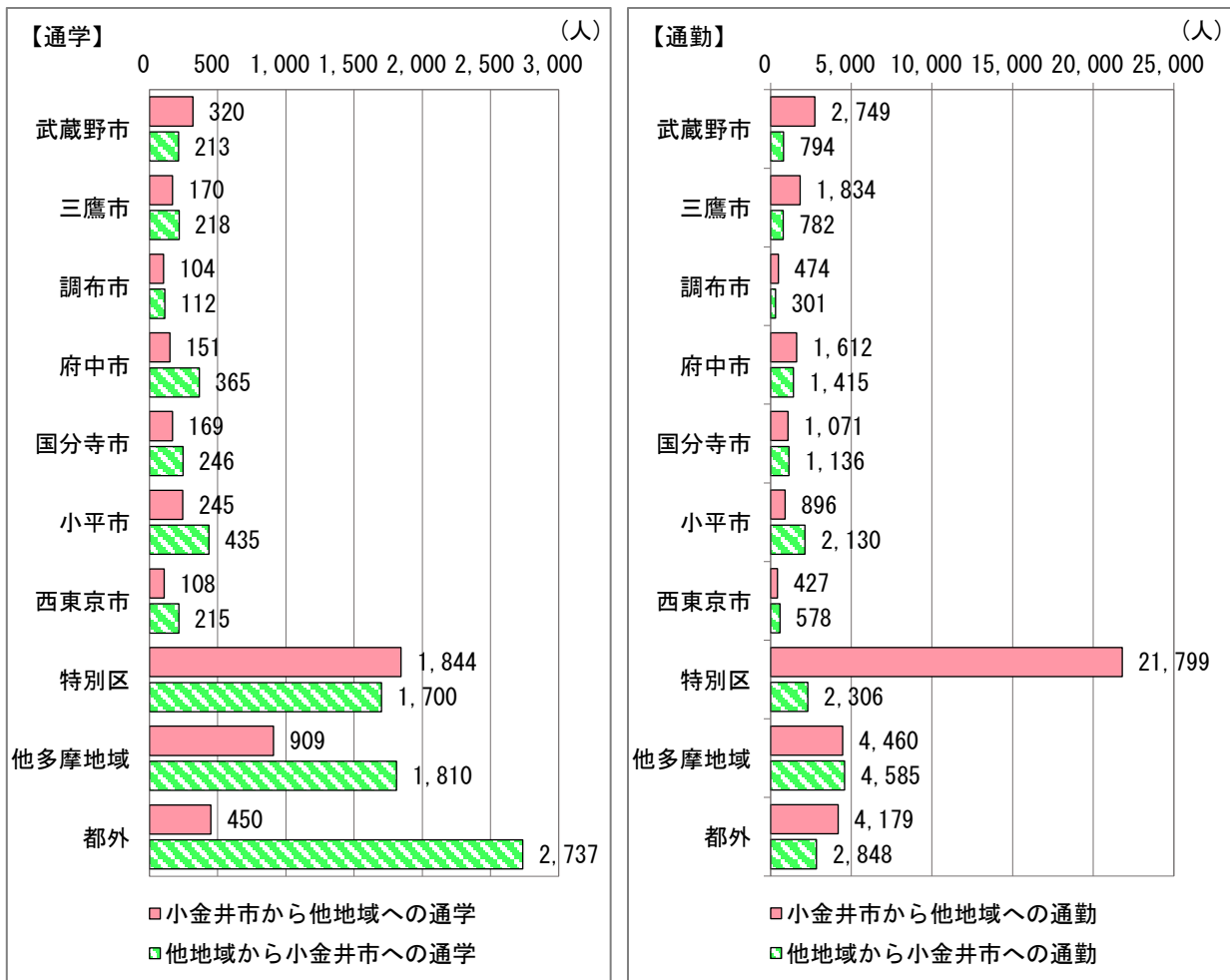
5 移動特性

5.1 通勤・通学

通勤・通学の流動について、国勢調査（令和2（2020）年）によると、全体として通学については小金井市から他地域への流出より流入が多い傾向にあり、一方、通勤については、他地域からの流入より流出が多く特に中央線沿線の千代田区、新宿区など特別区への通勤人口が多く一般的なベッドタウンの傾向を示しています。他方、小平市、国分寺市など隣接する地域や特別区以外の多摩地域からは流入する人口が多くなっています。

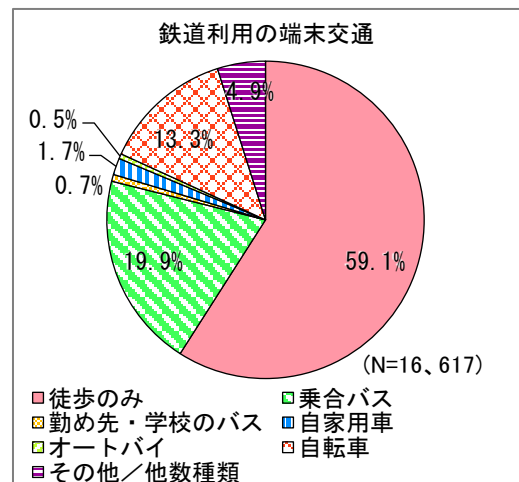
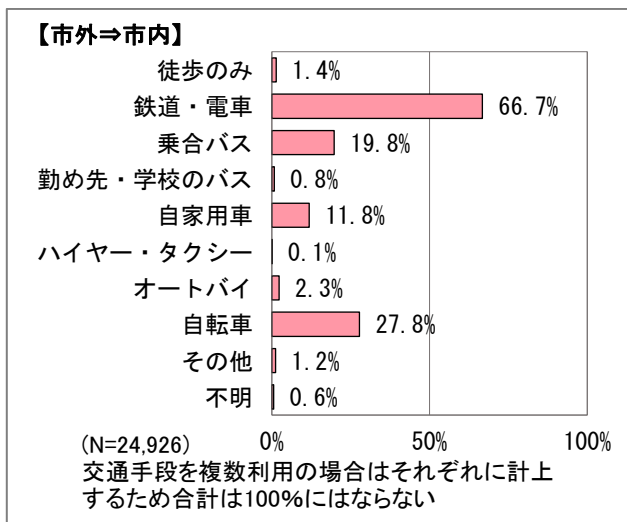
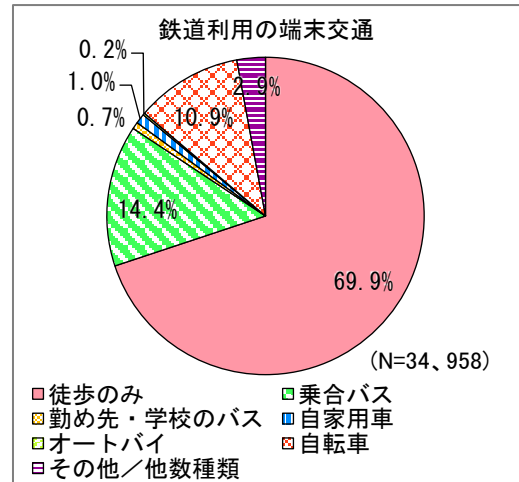
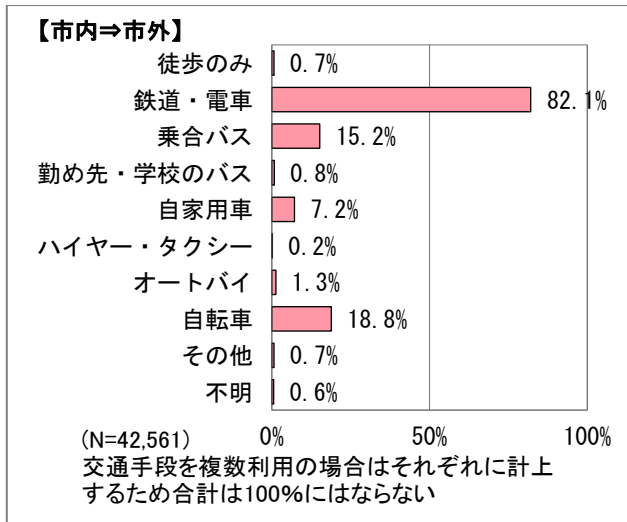
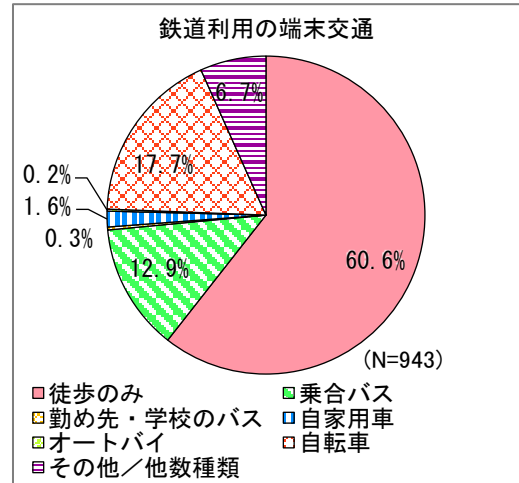
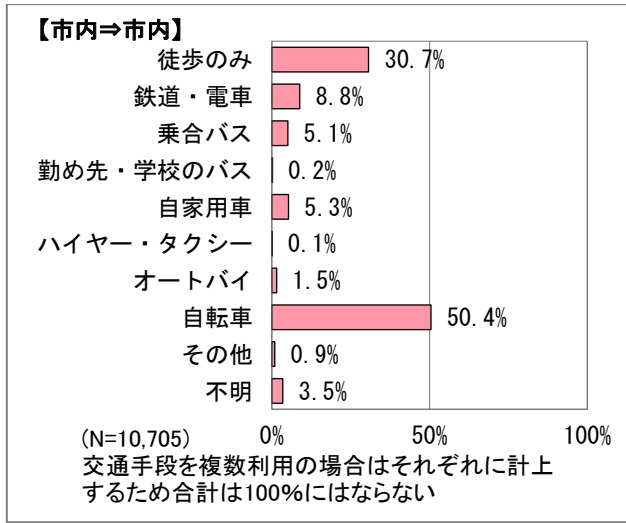
移動交通手段を見ると、市内の通勤・通学は徒歩、自転車の利用率が高く、鉄道・電車やバスの利用が低い傾向にあります。市外への通勤・通学は鉄道・電車の利用率が非常に高く、80%以上の人が鉄道を利用しています。また、鉄道利用の末端交通は徒歩とする人が7割を占めます。市外からの通勤・通学は、鉄道・電車の利用率が高いことは同様ですが、自転車の利用も多い状況です。

図表- 11 通学人口（左）、通勤人口（右）（令和2（2020）年）



出典：令和2（2020）年国勢調査より作成

図表- 12 小金井市における通勤・通学の利用交通手段（令和2（2020）年）



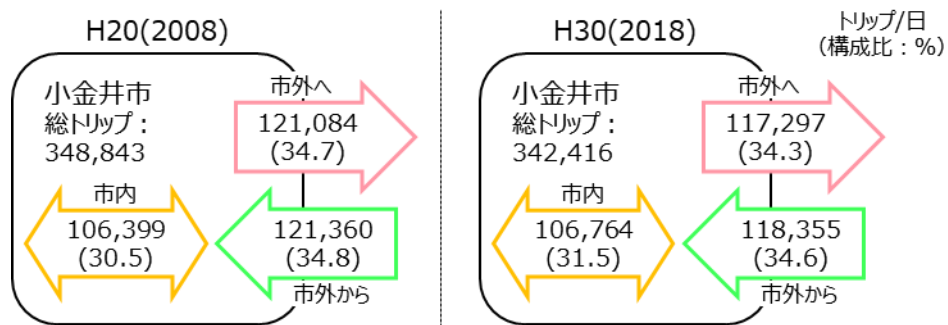
出典：令和2（2020）年国勢調査より作成

5.2 移動の目的

第5回東京都市圏パーソントリップ調査（平成20（2008）年）と第6回調査（平成30（2018）年）における小金井市の市内々、市内外のトリップ数を比較すると、通勤、通学、帰宅が増加し、業務、私事が減少しています。

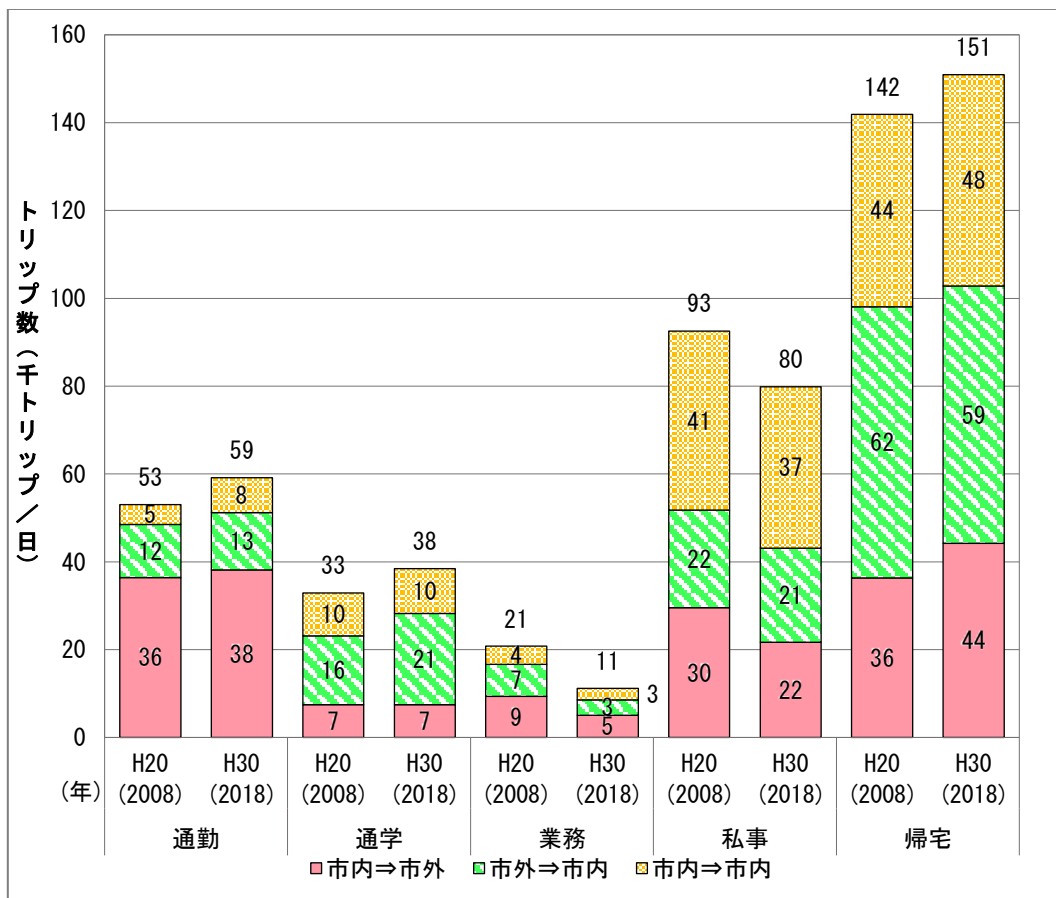
通勤については、市内々、市内外のトリップ数が増加している一方、通学については市外から市内へのトリップのみ増加しています。また、私事目的のトリップは減少しており、特に市外へのトリップが大きく減少しています。

図表-13 移動先別トリップ数



出典：東京都市圏パーソントリップ調査より作成

図表-14 移動先別・目的別トリップ数

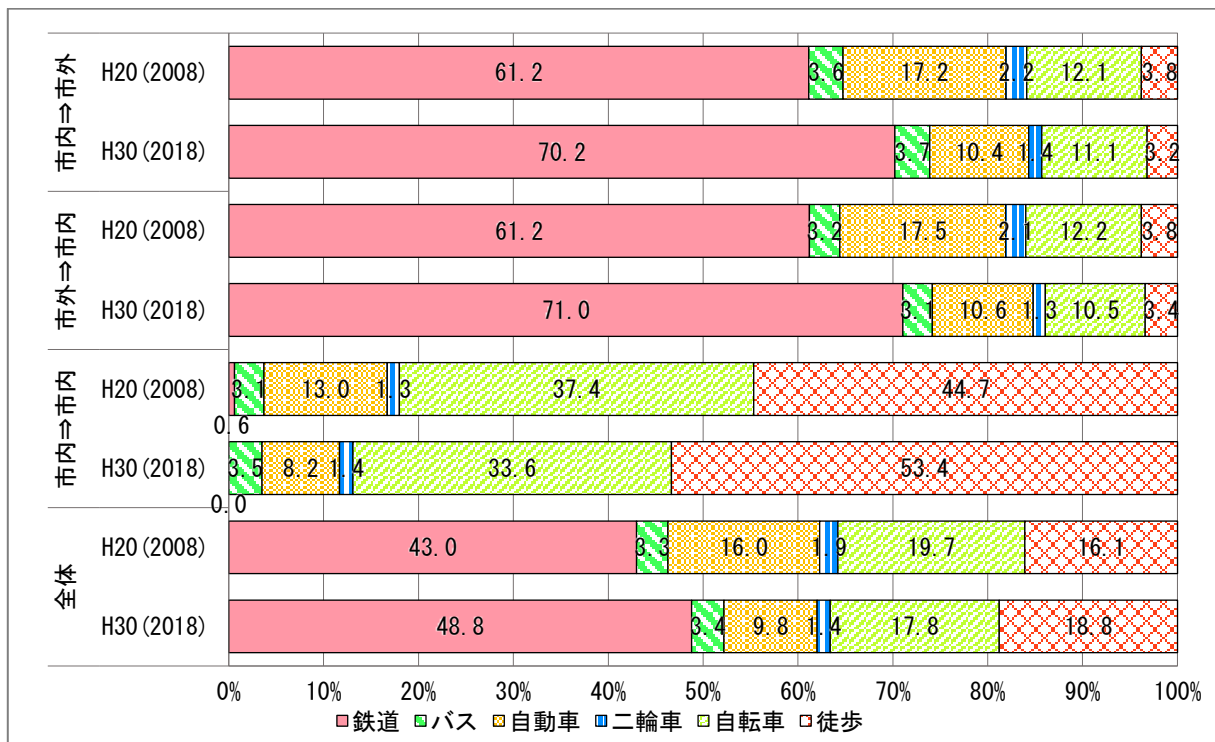


出典：東京都市圏パーソントリップ調査より作成
※目的の不明を除いて作成

5.3 移動の手段

小金井市における交通手段は、鉄道の割合が大きく増加し主に市内外のトリップの割合が増加しており、自動車の割合は減少しています。また徒歩の割合も増加していますが、こちらは市内々のトリップにおいて割合が大きく増えています。自動車、自転車については市内々、市内外のトリップいずれにおいても割合が減少しています。

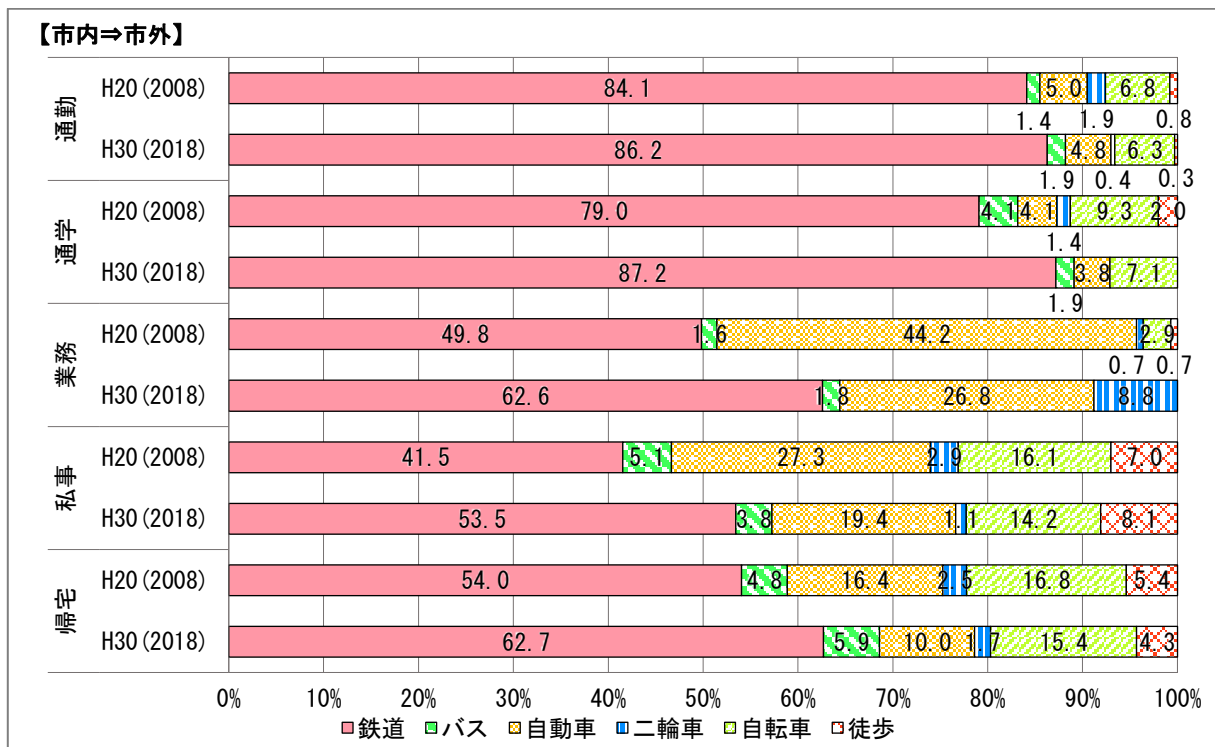
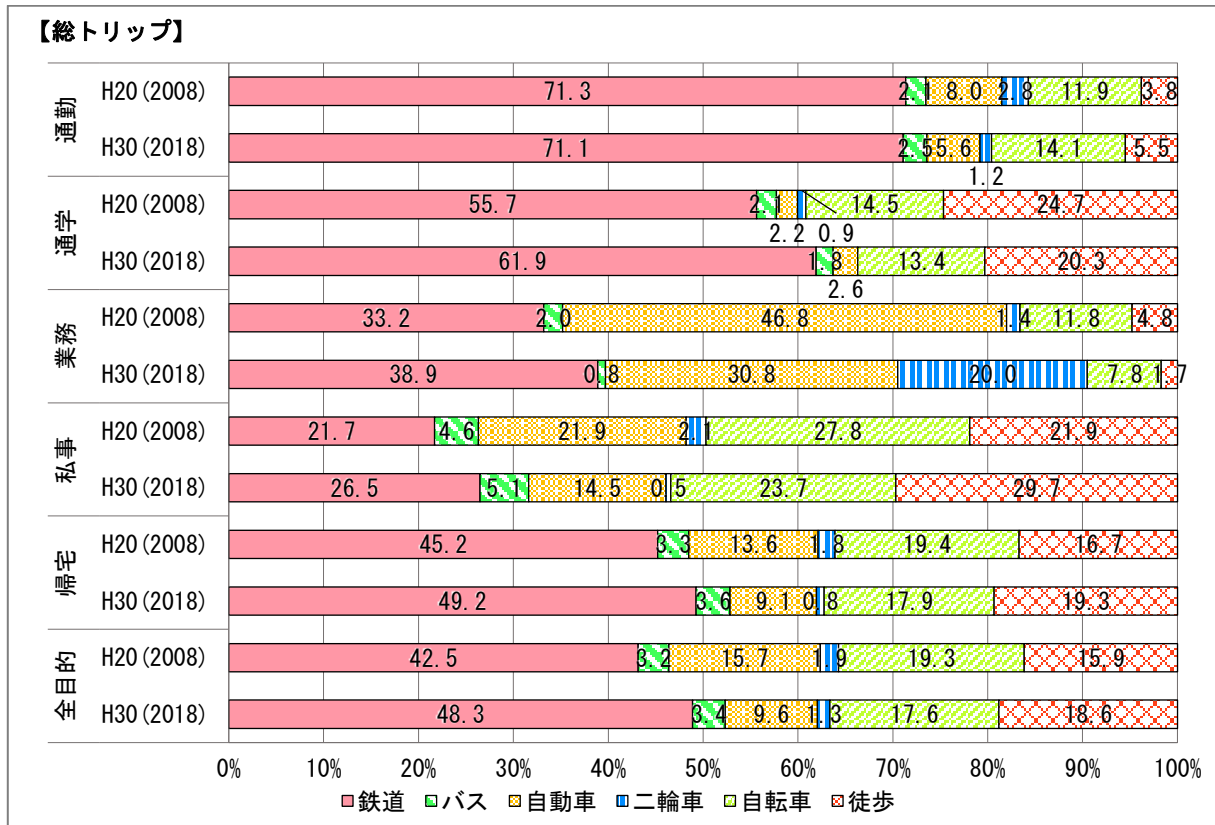
図表- 15 小金井市における代表交通手段の分担率

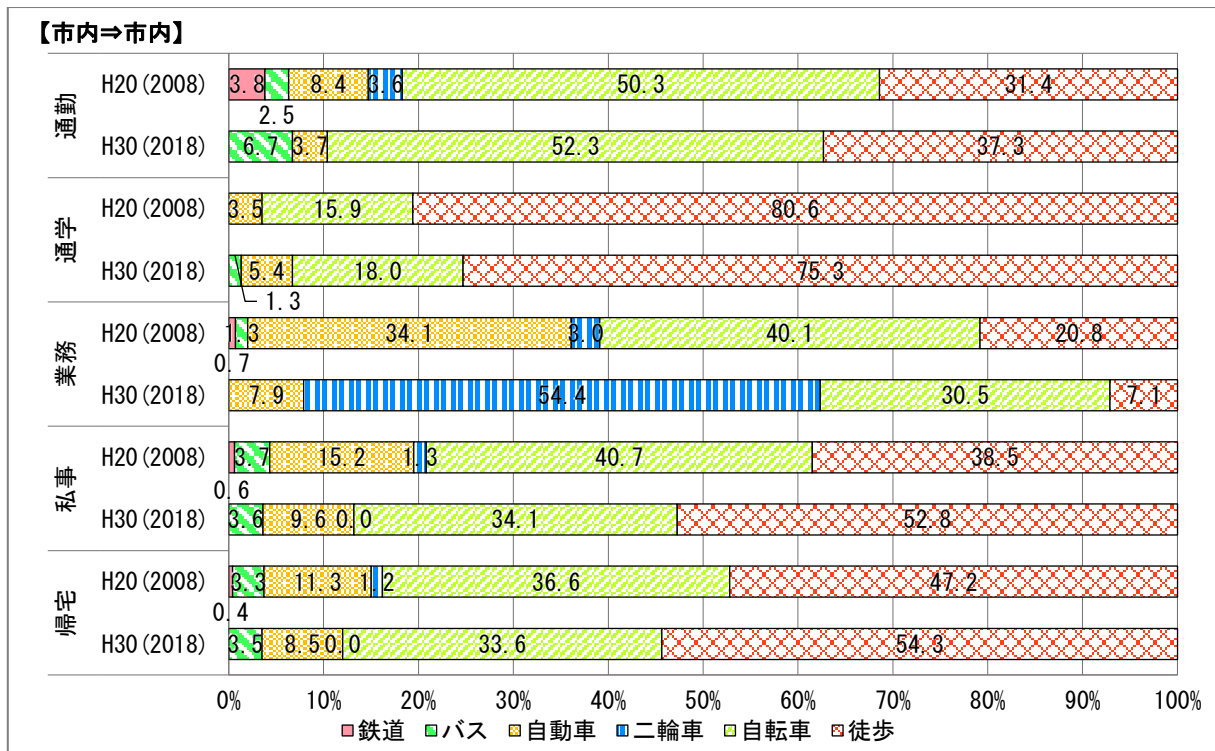
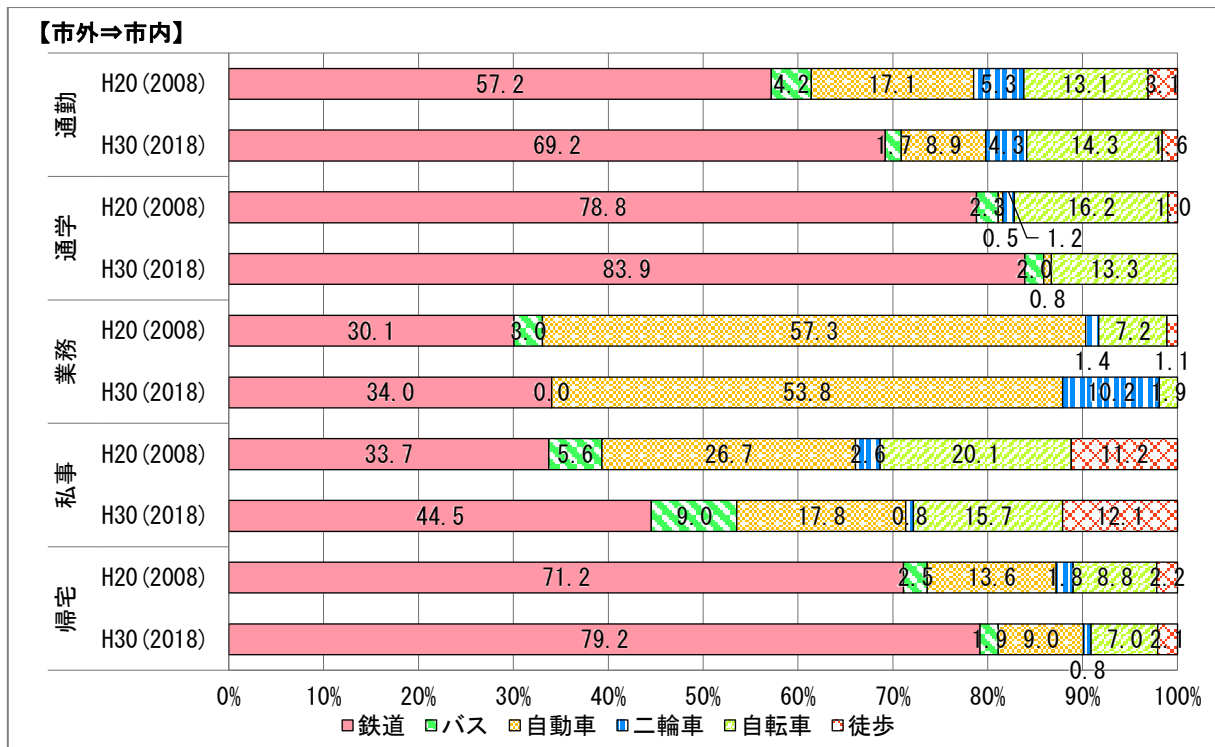


出典：東京都市圏パーソントリップ調査より作成
 ※交通手段その他・不明を除いて作成

また、目的別の代表交通手段の構成を見ると、通学での鉄道増加、徒歩減少、業務での自動車減少、二輪車増加、私事における鉄道と徒歩増加、自動車減少などが読み取れます。

図表- 16 小金井市における目的別代表交通手段の構成





出典：東京都市圏パーソントリップ調査より作成
 ※目的不明、交通手段その他・不明を除いて作成

6 観光（施設来訪者数）

小金井市内の主な観光施設の来訪者数は以下のとおりです。

小金井公園の来訪者数が多く、新型コロナウイルス感染症拡大前は300万人近く、コロナ禍においても200万人超の来訪者がいます。令和5年度には来訪者数が回復し、年間約276万人の来訪があったこととなります。江戸東京たてもの園については、コロナ禍の期間の令和2～3年度と以前の平成29～30年度では、来訪者数が半分以下になっています。令和4年度には来訪者数が回復し、年間約21万人、1日当たり約700人の来訪があったこととなります。

小金井市立はけの森美術館、小金井宮地楽器ホールについては、各企画展、講演等、イベントへの来訪者数が、令和3（2021）年度はけの森美術館については約3千人、宮地楽器ホールは約14千人、令和4（2022）年度はけの森美術館については約5千人、宮地楽器ホールは19千人、令和5（2023）年度はけの森美術館については約4千人、宮地楽器ホールは約24千人となっています。また特別緑地保全地区に指定されている滄浪泉園緑地については、令和3（2021）年度来訪者数約10千人、令和4（2022）年度来訪者数約8千人、令和5（2023）年度来訪者数約6千人の来訪があります。

図表- 17 小金井公園、江戸東京たてもの園年間来訪者数

(人/年)

	令和5年度	令和4年度	令和3年度	令和2年度	令和元年度	平成30年度	平成29年度
小金井公園	2,763,710	2,363,241	2,270,515	2,192,756	2,746,615	2,678,082	2,968,756
江戸東京たてもの園	-	214,083	116,052	100,771	229,663	256,202	252,476

出典：小金井公園マネジメントプラン（東京都建設局）、事業実績（江戸東京博物館）より作成

図表- 18 他主要観光関連施設の年間来訪者数

(人/年)

		令和5年	令和4年度	令和3年度
小金井市立はけの森美術館	展覧会等入館者数	3,943	4,278	2,655
	関連企画	360	451	88
	計	4,303	4,729	2,743
小金井宮地楽器ホール	芸術文化公演事業	6,613	6,138	3,649
	市民芸術振興事業	16,680	12,727	10,066
	会員限定イベント	217	207	111
	計	23,510	19,072	13,826
滄浪泉園緑地		6048	7,875	9,702

出典：小金井市事務報告書より作成

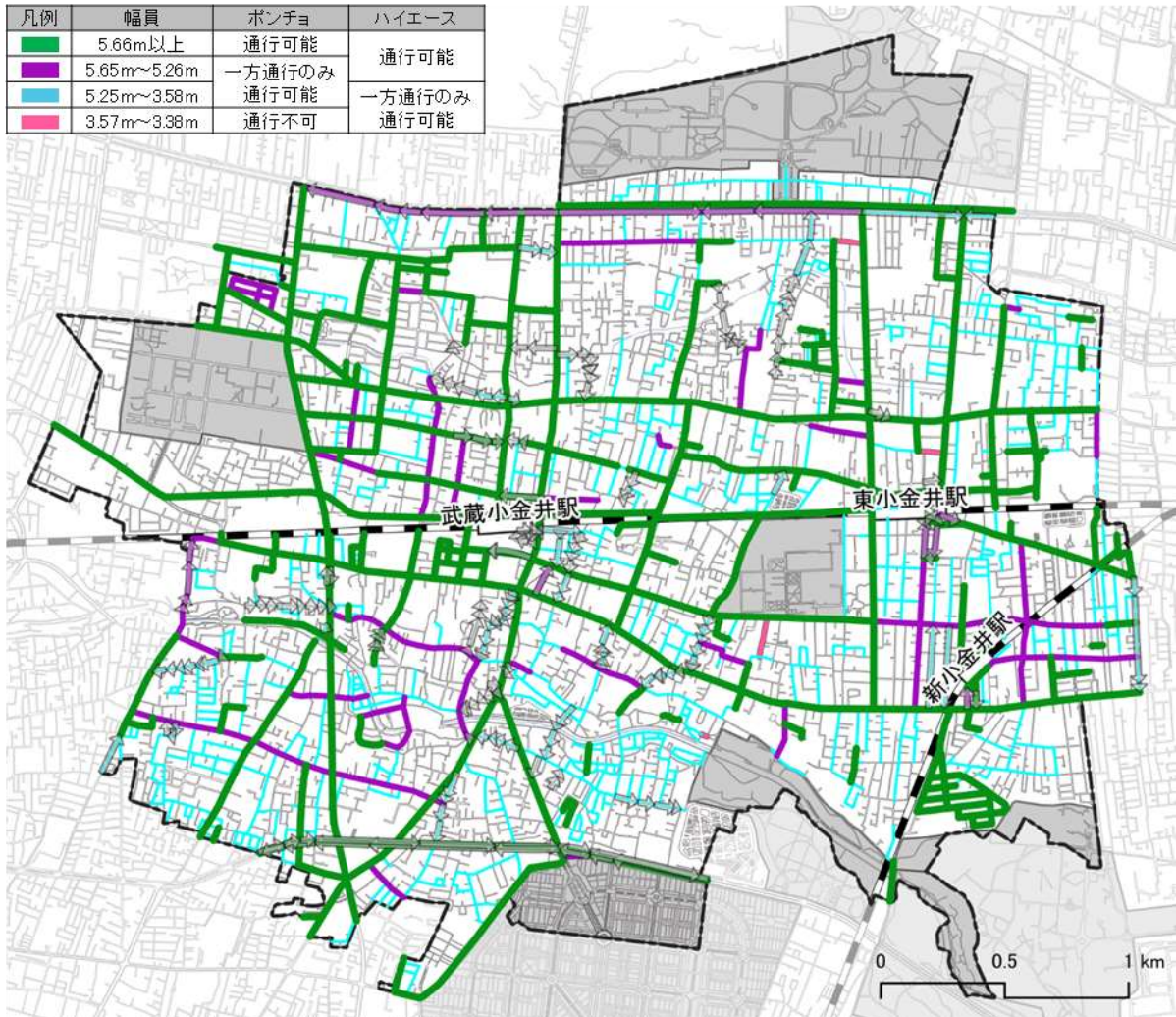
※小金井宮地楽器ホールの施設利用者数は除く

7 道路状況

7.1 主要道路の幅員構成の確認

小金井市内の道路については、縦横に幅員の大きな道路が通っています。他方、主要な道路から中に入ると細かい路地が多い状況で、大型の車両などは通行できない場所が多くあります。

図表- 19 コミュニティバスの通行可能な道路

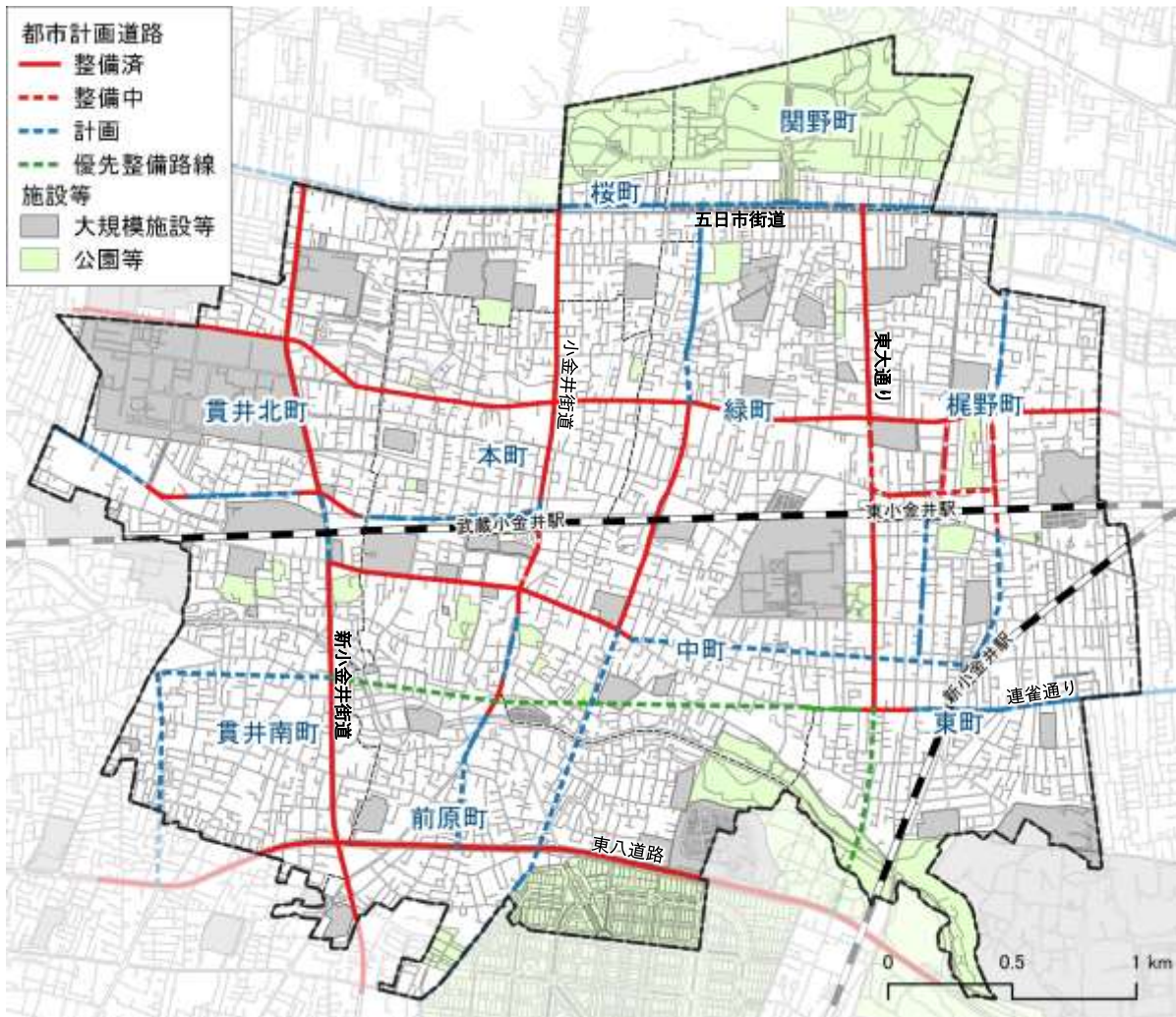


出典：小金井市道路台帳（令和1（2019）年9月時点）より作成

7.2 都市計画道路

小金井市では、都市計画道路 16 路線が計画決定されており、その総延長は約 31 キロメートルです。現在、約 15 キロメートルの整備が完了しており、整備率は 48.8%となっています。

図表- 20 都市計画道路の整備状況



出典：国土数値情報（国土交通省）、地理院タイル（国土地理院）、都市計画道路の整備状況（小金井市 HP）より作成

7.3 自転車通行空間

東京都の自転車通行空間整備計画における優先整備区間と警視庁による整備区間の分布は以下のとおりです。武蔵小金井駅の周辺では面的に整備が進んでおり、主要道では小金井街道、連雀通り（都道 134 号）で武蔵小金井駅を中心に市を南北、東西に貫く形で通行空間が整備されています。

図表- 21 自転車通行空間の整備状況（東京都、警視庁計画・整備分）



出典：国土数値情報（国土交通省）、地理院タイル（国土地理院）、
 自転車通行空間整備推進計画（東京都）、小金井警察署資料より作成
 ※自転車ナビルート整備路線の市外表示は小金井警察署管轄区域（小金井市、国分寺市）のみ

7.4 駐輪場設置状況

駅周辺の自転車駐輪場の配置状況は以下のとおりです。一時利用、定期利用含め武蔵小金井駅では約 6,100 台、東小金井駅では約 4,500 台、新小金井駅では約 300 台の駐輪の容量があります。

図表- 22 駅周辺の自転車駐輪場の配置図（令和 5（2023）年度）



武蔵小金井						東小金井					
番号	市営/ 民営	設置箇所	一時 利用	定期 利用	車両数	番号	市営/ 民営	設置箇所	一時 利用	定期 利用	車両数
①	市営	武蔵小金井北第5自転車駐車場	○	○	843	①	市営	東小金井駅西側高架下自転車駐車場 A		○	708
②	市営	武蔵小金井南第3自転車駐車場		○	96	②	市営	東小金井駅西側高架下自転車駐車場 B	○	○	590
③	市営	武蔵小金井南第7自転車駐車場	○		165	③	市営	東小金井北第1自転車駐車場-①	○		529
④	民営	武蔵小金井駅西側自転車駐車場	○		563	④	市営	障がい者専用自転車駐車場(東小金井北第1自転車駐車場-②)	○	○	46
⑤	民営	武蔵小金井駅西側高架下第1自転車駐車場	○	○	1,377	⑤	民営	TOKYO パブリック東小金井駅前第二駐輪場	○		529
⑥	民営	武蔵小金井駅西側高架下第2自転車駐車場		○	615	⑥	民営	TOBU パーク東小金井駅前第三駐輪場	○		116
⑦	民営	武蔵小金井駅南第1自転車駐車場		○	938	⑦	民営	KT パーク	○		112
⑧	民営	自転車駐車場		○	429	⑧	民営	サイクルダイチ	○		116
⑨	民営	けやき		○	471	⑨	民営	東小金井駅東側高架下自転車駐車場		○	350
⑩	民営	ダイチ	○		149	⑩	民営	サイクルスペース 24 東小金井駅南自転車駐車場-①	○	○	1,177
⑪	民営	TOHTO サイクルパーク	○		144	⑪	民営	サイクルスペース 24 東小金井駅自転車駐車場-②	○		220
⑫	民営	北口サイクルパーク		○	-	新小金井					
⑬	市営	中町4丁目自転車置場	○		300	①	市営	新小金井西第1自転車駐車場	○	○	319

出典：GEOSPACE(NTT インフラネット)、市提供の自転車駐車場案内図より作成

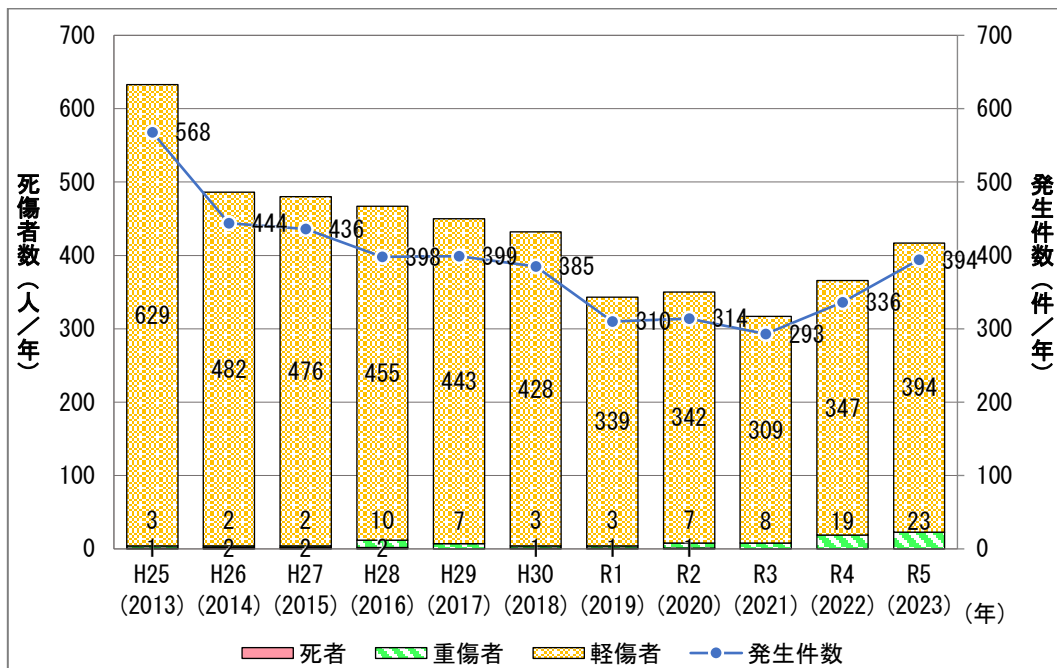
8 交通事故状況

8.1 交通事故発生状況（年代別・手段別）

小金井警察署管轄地域（小金井市・国分寺市）における交通事故発生件数については、平成 25（2013）年以降減少傾向が続いており、令和元（2019）年から新型コロナウイルス感染症拡大の影響で件数がさらに減少している。令和 4（2022）年以降は、人の移動が徐々に戻った影響か増加傾向にあり、令和 5（2023）年にはコロナ前の水準に戻っているが、過去 10 年の傾向で見ると事故件数は減少している。

また近年、重傷者の件数が、徐々に増加している。

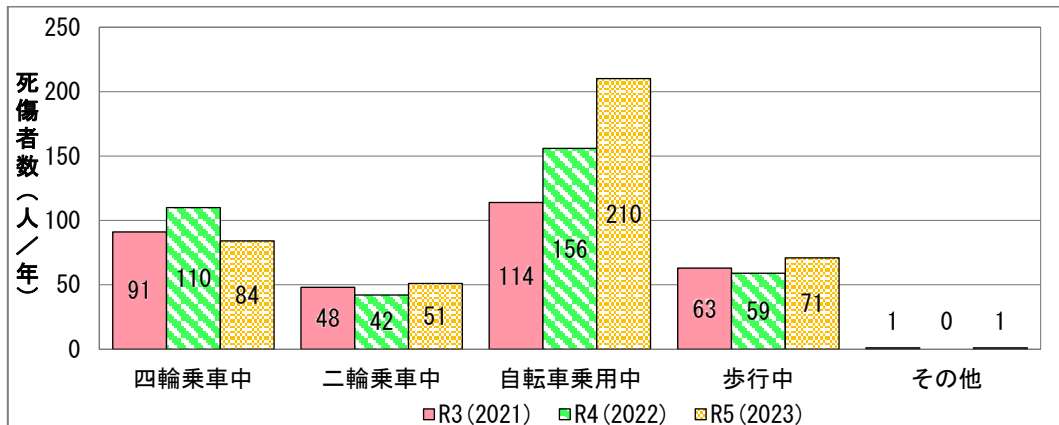
図表- 23 小金井署管轄地域における年間死傷者数、発生件数



出典：警視庁の統計より作成

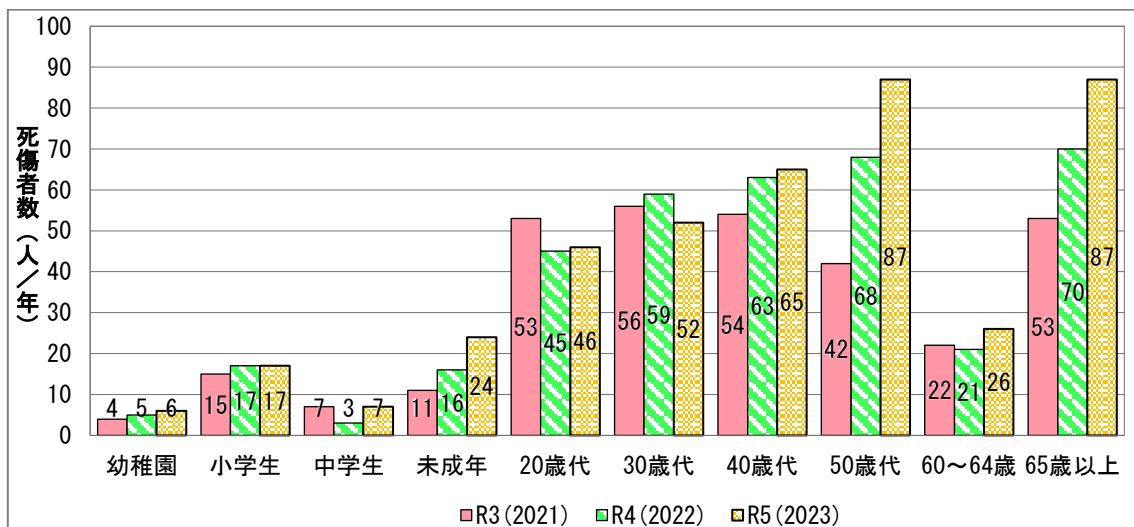
また、状況別の統計を見ると令和3（2021）年から令和5（2023）年にかけて自転車での事故が増加しています。年代別では、若年層では小学生の死傷者数が多く、成人以降の年代では若年層に比べ、どの年代も死傷者数が多い状態です。また60歳から64歳代はそれまでの年代に比べ数が減少しています。令和3（2021）年から令和5（2023）年にかけては、30代以降、60歳から64歳代を除き、数が増加しており、特に50歳、65歳以上の年代が急増しています。

図表- 24 小金井署管轄地域における状態別年間死傷者数



出典：小金井警察署の統計より作成

図表- 25 小金井署管轄地域における年代別年間死傷者数



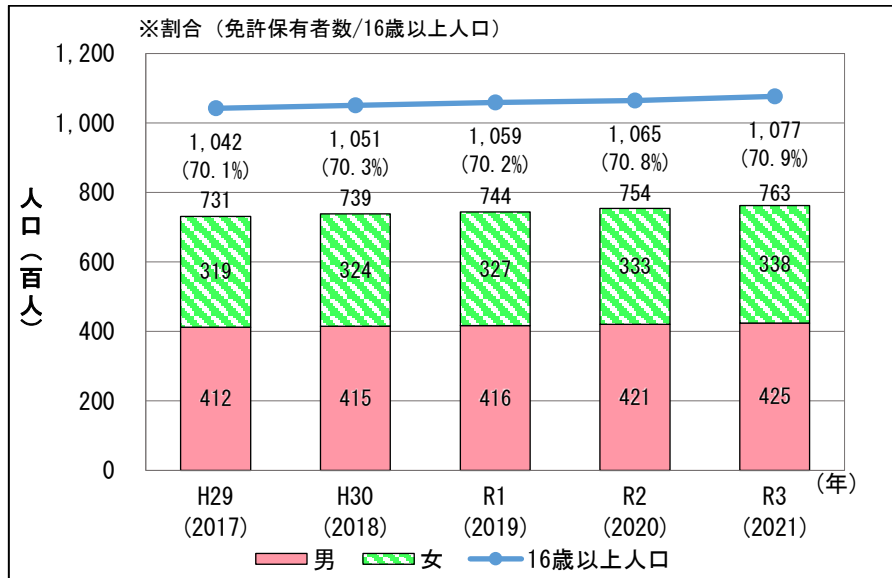
出典：小金井警察署の統計より作成

9 免許保有状況

9.1 免許保有状況

小金井市の運転免許保有者数は平成 29 (2017) 年から令和 3 (2021) 年にかけて増加傾向にあり、人口の増加とともに増えています。

図表- 26 小金井市における運転免許保有者数の推移

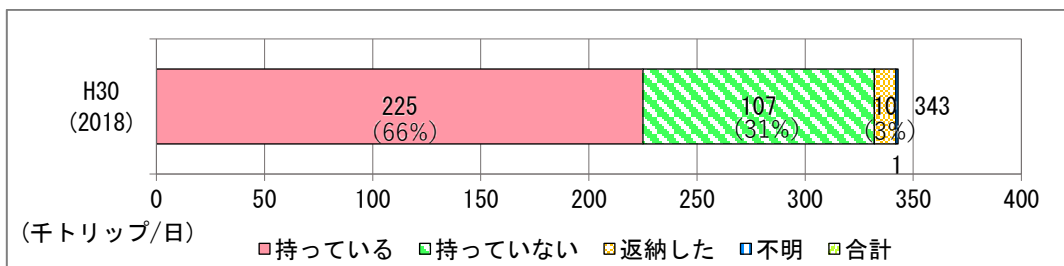


出典：警視庁交通年鑑より作成

9.2 保有状況別行動特性

第 6 回東京都市圏パーソントリップ調査 (平成 30 (2018) 年) から抽出した小金井市の市内々及び市内外のトリップにおける運転免許保有状況別トリップ数は以下のとおりです。運転免許を持っている人のトリップが全体の 66%、持っていない人が 31%、返納した人が 3%の割合となっています。

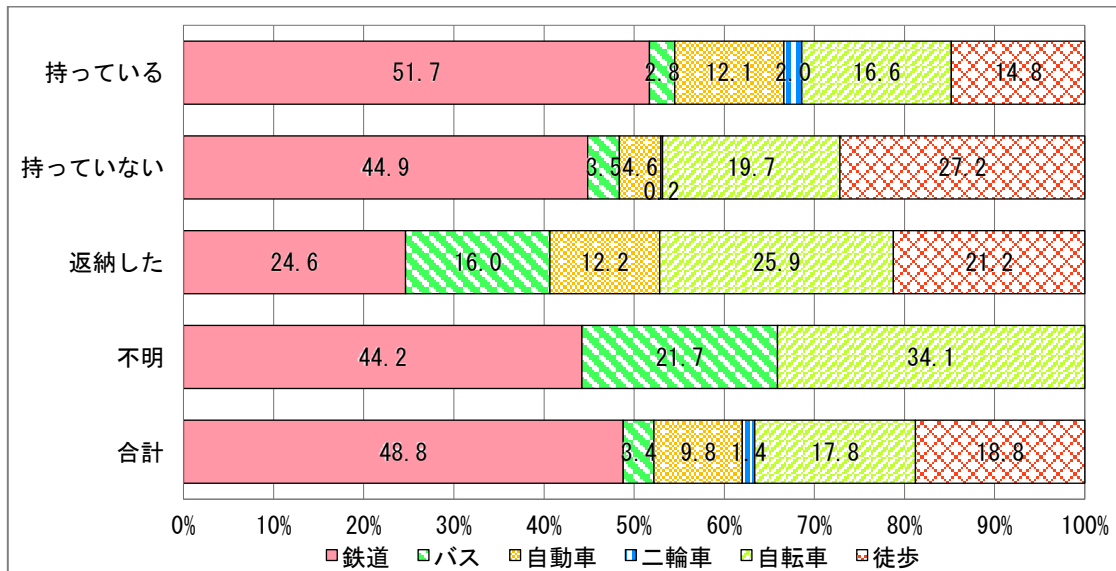
図表- 27 運転免許保有状況別トリップ数



出典：東京都市圏パーソントリップ調査より作成

また、運転免許保有状況別に代表交通手段の構成を見ると、持っている人については、鉄道が51.7%と割合が高く、次いで自転車16.6%、徒歩14.8%となり、自動車は4番目で12.1%となります。持っていない人については、鉄道44.9%、徒歩27.2%、自転車19.7%に続き自動車が4.6%となり、持っている人と比べ、鉄道、自動車の割合が低く、自転車、徒歩の割合が高くなっています。返納した人については、自転車25.9%、鉄道24.6%、徒歩21.2%、バス16.0%、次いで自動車の割合が12.2%となっています。持っている人と比べ鉄道の割合が低く、自転車、徒歩、バスの割合が高いですが、自動車の割合は同等となっています。

図表- 28 運転免許保有状況別・代表交通手段の構成



出典：東京都市圏パーソントリップ調査より作成

10 道路混雑状況

10.1 交通量

主要幹線の交通量については、小金井市の中心から北東部地域の南北、東西に走る幹線については、10,000 台/12h 以下となっています。市西部を南北に走る新小金井街道は 10,000 から 15,000 台/12h、南部の東八道路は 15,000 台/12h 以上と交通量が多い状況です。

図表- 29 主要幹線道路の交通量



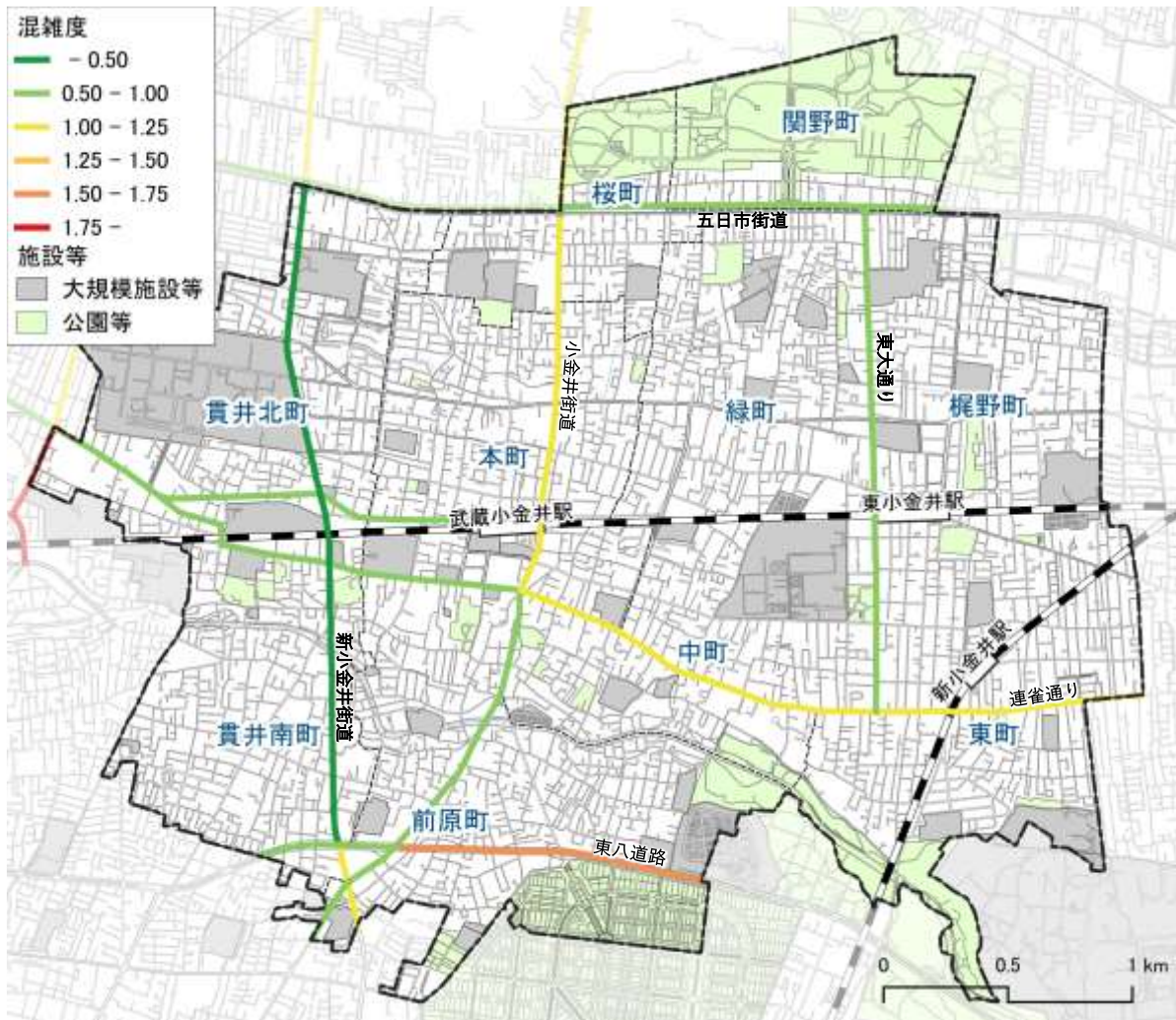
出典：国土数値情報（国土交通省）、地理院タイル（国土地理院）、R3 道路交通センサスより作成

1 0.2 混雑度

主要幹線の道路混雑度*については、武蔵小金井駅周辺から北側の小金井街道沿い、中町と東町の連雀通り沿いが混雑度 1.00~1.25 で比較的混雑しています。また、前原町の東八道路沿いが混雑度 1.50~1.75 と混雑度が高い状態となっています。

※なお、通勤ピークの時間帯や交差点前などの地点など局所的に発生する渋滞に対する実感と数値が乖離している可能性があります。

図表- 30 主要幹線道路の混雑度



出典：国土数値情報（国土交通省）、地理院タイル（国土地理院）、令和3年度全国道路・街路交通情勢調査より作成

*道路の混雑状況を示す指標であり、ある路線における交通容量に対する交通量（実測値）の比で算出される。交通量（実測値）は、ある路線上の特定地点で実測した12時間中の交通量を使用しており、数値の目安は以下のとおり。

- 0.50：ピーク時、平常時ともに道路が混雑することなく、円滑に走行できる
- 1.00：ピーク時は車列ができるがノロノロせずに走行でき、平常時は円滑に走行できる
- 1.50：ピーク時は渋滞が生じノロノロ運転となり、平常時は渋滞が生じないまでも速度低下状態となる